

## 1 アユカケ養殖普及指導事業

担当：松田成史（養殖・漁場環境室）

実施期間：平成25年度～（平成26年度予算額：1,388千円）

### 目的

地域養殖特産種創出試験およびアユカケ養殖実用化試験で培った技術を基に、アユカケ養殖希望者に対し飼育技術を指導することで、アユカケ養殖を普及し養殖経営体を創出することを目的とした。

### 方法

#### ①種苗生産（委託生産）

アユカケ養殖指導に必要な種苗の生産と親魚の管理を（公財）鳥取県栽培漁業協会に委託した。委託生産尾数は全長 25mm を 1 万尾とした。生産経費の低減を目的に冷凍餌料の利用も検討した。

#### ②養殖普及指導

##### a. 養殖技術指導

鳥取県鳥取市河原町の西郷地区の養殖希望者に対し養殖指導を計画していた。しかし、飼育担当者が決まらず、養殖指導は行えなかった。このため、普及活動の支援のみを行った。

##### b. 市場調査

アユカケの食文化が残る福井県の福井県立大学で行われた九頭竜川シンポジウムに参加した。その他県内の料理店等に聞き取りを行った。

### 結果と考察

#### ①種苗生産

平均全長25mm, 11,394尾の種苗が納品された。冷凍餌料については水槽内の水流をコントロールすることにより、効果的に冷凍餌料が利用できる可能性があるとの報告が委託先の（公財）鳥取県栽培漁業協会より示された。

#### ②養殖普及指導

##### a. 養殖技術指導

栽培漁業センターで育成したアユカケ成魚を用い、西郷地区公民会主催によるアユカケ試食会が行われた。アユカケの食味に対する評価は高く、現地の飲食店でも使用してみたいとの声も上がった。しかし、養殖生産の担当者が決まらず、アユカケ養殖の推進が困難となった。このため、サマーレビューにより事業を中断することとなった。

##### b. 市場調査

九頭竜川流域では、アラレガコ（アユカケ）の漁獲量は減少しており、現在は水産高校の生徒が養殖の研究をしているとのことだった。福井県水産試験場の調査ではアユカケの市場価値は10,000～15,000円/kgで、非常に高価な魚だった。

## H26成果 1 アユカケ養殖普及指導事業

一方で、鳥取県内でもアユカケの食文化は存在し、「あゆかけのじゃぶ」は東部の千代川水系で以前は親しまれていたらしい（写真1）。しかし、アユカケが取れなくなったこと、川魚の食文化がうすれつつあることなどから、このような食文化も姿を消してしまった可能性が高い。



写真1 あゆかけのじゃぶ（鳥取市河原町の川魚料理店の主人が再現）